

株主のみなさまへ



第77期 決算報告書

平成28年4月1日 ▶ 平成29年3月31日

contents

トップメッセージ	1
中期経営計画について	3
ジャムコのビジネスフィールド	5
Jamco News	7
連結業績の推移	9
連結財務データ	10
平成28年度事業別営業概況	11
会社概況・事業拠点	13
株主メモ／株式の状況	14
特集 海外拠点のご紹介	裏表紙

株式会社 **ジャムコ**

証券コード：7408

経営理念

士魂商才

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。



Q | 平成28年度の決算について総括をお願いします。

A 平成28年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の決算は、残念ながら前期に比べ大幅な減収減益となりました。

航空機内装品等製造関連、及び平成28（2016）年6月28日付の組織再編で独立した航空機シート等製造関連では、シートの出荷は増加しましたが、前期に対して為替相場が円高で推移したことによるドル建て売上高の目減り、ボーイング社が開発中の777X型機への移行を控えた現行777型機向けとしてエアラインから受注しているギャレー（厨房設備）の売上高の減少、スペアパーツ販売の減少などに加えて、工事損失引当金の計上やシートプログラムの一部キャンセルに伴う費用の一括処理などで原価が増加しました。

航空機器等製造関連では、民間航空機用エンジン部品の受注が堅調で生産量も増加しましたが、ドル建て売上高の目減り、エアバスA380型機向け炭素繊維構造部材の生産量の減少などの影響を受け、売上高、

経常利益共にやや減少しました。

航空機整備等関連では、特別作業の受注や完成工事が比較的好調に推移した前期に対し、完成工事が減少したことなどにより売上高、経常利益共に減少しました。

これらの結果、当連結会計年度の経営成績は、売上高81,834百万円（前期比9,726百万円減）、営業利益2,132百万円（前期比6,661百万円減）、経常利益1,285百万円（前期比6,959百万円減）、親会社株主に帰属する当期純利益1,014百万円（前期比4,155百万円減）となりました。

なお、剰余金の配当につきましては、減配となり申し訳ありませんが1株当たり10円（連結配当性向26.4%）とさせていただきます。

Q | 平成29年度の見通しを含めた中期（3ヵ年）経営計画についてご説明ください。

A 航空機内装品等製造関連においては、受注の端境期を迎えている現行の777型機用のエアライン向けギャレーの売上高減少や、

受注価格の低下などによる影響で、平成29年度については売上高で前期比約65億円、又、経常利益で約14億円、それぞれ減少する見込みですが、平成30年度からは徐々にギャレーの売上高が回復すると共に、コスト削減により、経常利益も増加する見通しです。

航空機シート等製造関連では、平成29年度は新規プログラムの製品出荷が始まり、売上高は前期比約32億円の増加を見込んでいます。又、不採算工事については前期末に工事損失引当金等で手当しており、コスト削減を推し進めることで売上総利益は黒字化を見込んではいませんが、経常利益ベースでは未だ損失が残る見通しで、平成30年度からの経常黒字化を目指しています。当社の内装品ビジネスにとって、航空機シートはギャレー、ラバトリーと共に欠くことのできない重要な製品であり、将来の収益の柱に育てるべくグループ一丸となって取り組んでいるところで、現在は未だ生みの苦しみのなかで将来の布石を打っているような状況ですが、引き続き改善を推し進め、採算性の向上を図っていきます。

航空機器等製造関連では、平成29年度以降、エアバスA380型機向け炭素繊維構造部材の生産量の減少はあるものの、前期減益要因となったエアバスA350型機向け炭素繊維構造部材のコスト削減が進み、又、民間航空機用エンジン部品や熱交換器等の売上高が増加するなどにより増収増益を見込んでいます。

航空機整備等関連では、飛行安全の確保と品質向上を基本に機体整備の新規ビジネスに向けた取組みや海外顧客も視野に入れた装備品整備の受注活動を進め、新たな事業モデルづくりを目指しています。平成29年度は防衛関連で、平成30年度以降は機体改修やリージョナル機などで受注増加を見込んでおり、又、前期より新たに始めた部品販売などにも注力していきます。

こうした状況を踏まえ、平成29年度の連結業績見通しは、売上高79,400百万円、営業利益3,800百万円、経常利益3,470百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,280百万円を見込んでいます。又、配当金につきましては、1株当たり20円（連結配当性向23.5%）を予定しています。

≫≫ 中期3ヵ年経営計画における売上高、経常利益については、ページ3~4のグラフをご参照ください。

最後に株主のみなさまへメッセージをお願いします。

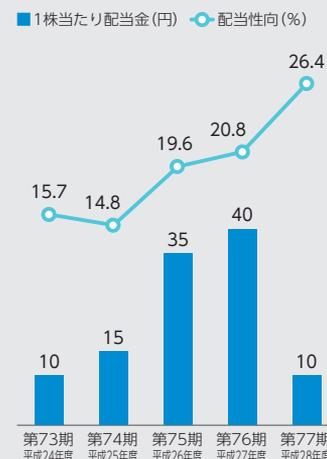
景気動向や地政学的リスクなどの不透明感はあるものの、世界の経済成長に伴って航空機産業は中長期的な拡大が見込まれています。もちろんエアライン、航空機メーカー共に世界的な競争は益々激しくなり、我々サプライヤーにとっても事業環境は決して楽観できるものではありませんが、航空需要は確実に増大していくものと予想されます。今後も当社グループはこの潮流を捉え、「航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の機能を併せ持つオンリーワンの航空機総合企業を目指す」という中期ビジョンの実現に向けて邁進してまいります。

株主のみなさまには、引き続き当社グループへのご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

利益配分に関する基本方針

経営基本方針と事業別方針のもと効率的経営を行い、収益の向上を図ることで株主のみなさまには安定かつ継続的に還元を行ってまいります。又、事業等のリスクの発現による不測の事態に備え、かつ将来の設備投資等の資金需要を勘案し、内部留保にも努めることが継続的成長にとって不可欠であり、このバランスを保つことが株主のみなさまへの利益につながるものと考えています。

この基本方針を踏まえつつ、平成27年度より、配当指標として「連結配当性向」を導入し、持続的な成長や事業リスクへの備えに必要な財務の健全性とバランスにも配慮の上、当面の間の連結配当性向を20%~30%を目安に配当を決定しております。



新中期経営計画のポイント

中期ビジョン

- 航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の機能を併せ持つオンリーワンの航空機総合企業を目指す

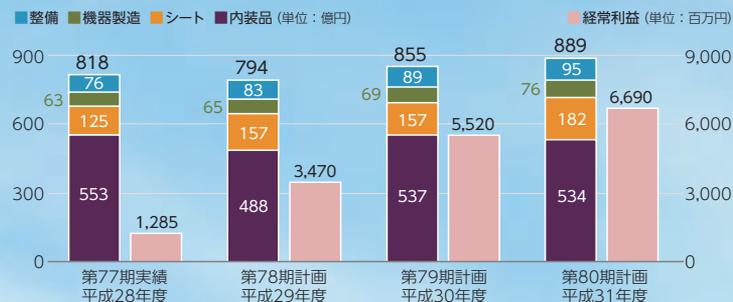
中期経営指標

- 収益性指標 … 連結経常利益率 7%以上
- 効率性指標 … 連結ROA 7%以上
- 配当方針 … 連結配当性向20～30%を目安とする

為替レート

- 中期3カ年の為替レートは110円/USドルを想定

売上高/経常利益(連結)



経営指標の推移

	第77期	第78期 (計画)	第79期 (計画)	第80期 (計画)
連結経常利益率	1.6%	4.4%	6.5%	7.5%
ROA (総資産経常利益率)	1.4%	3.8%	6.1%	7.1%
ROE (株主資本当期純利益率)	3.7%	8.2%	12.6%	13.6%
自己資本比率	29.4%	32.5%	34.6%	37.9%
1株当たり配当額	¥10	¥20	-	-
配当性向	26.4%	23.5%	-	-
株価(期末日)	¥2,475	-	-	-

設備投資額/減価償却費/試験研究費(連結) (単位: 百万円)



※設備投資には()内の全リース物件を含む。

※()内はリース資産分。

各事業セグメントの課題と対応

航空機内装品等製造関連

- ① 生産技術の革新を加速し、生産性の飛躍的な向上を図り、コスト競争力を一段と強化
- ② サプライチェーンを強化し、品質・コスト・リードタイムをより一層改善
- ③ 革新的な技術と製品により競争力を強化し、顧客との協力関係を更に確固たるものにして、世界シェアNO.1を確保

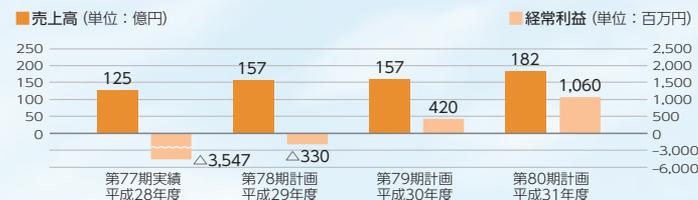
セグメント 売上高／経常利益（連結）



航空機シート等製造関連

- ① 設計、開発、調達、生産すべてにおけるコストダウンを加速
- ② 魅力的な製品開発により受注・販売を促進
- ③ グループサプライチェーンの最適化を図り、生産効率を向上

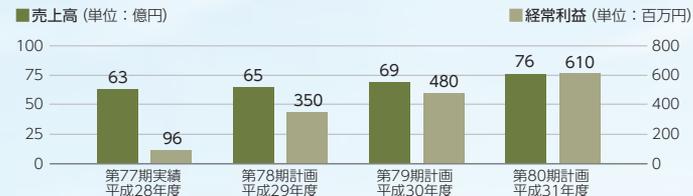
セグメント 売上高／経常利益（連結）



航空機器等製造関連

- ① 関連企業を含め品質及び生産効率を追求し収益性を向上
- ② 国内外の新たな顧客開拓を促進し、受注を拡大
- ③ 新たな開発プロジェクトへの参画等を通じて新製品を受注
- ④ 炭素繊維成型などの製造技術を内装品やシートに応用

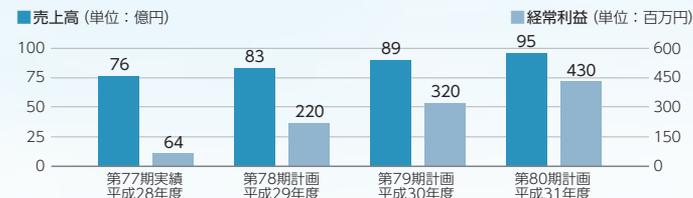
セグメント 売上高／経常利益（連結）



航空機整備等関連

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 海外市場への展開や海外メーカーとの協業を強化
- ④ MRO Japan株式会社（沖縄に展開予定の航空機整備改造業者）参画への準備を推進

セグメント 売上高／経常利益（連結）



技術を翼に世界の空へ

ジャムコはFor Safety and Comfortをキーワードに、安全なフライトと快適な空の旅の提供を通じて、航空機業界をサポートし、世界各国のお客様から絶大な評価と信頼を得てまいりました。「技術を翼に世界の空へ」。ジャムコは、これからも進化をし続けます。

航空機シート等製造関連

● AIRCRAFT SEAT

航空機旅客シート及びシートコンソールの企画・設計・製造を中心に事業を展開しております。快適性と機能性に優れたプレミアムシートや様々なシートコンソールなどの供給を通じて、快適な空の旅を提供いたします。

プレミアムクラスシートの市場における現在のシェアは5%程度ですが、引き続きシェア拡大に向けて収益の確保と共に、事業基盤の強化を図ってまいります。



Journey-B

主な事業内容

航空機用シートの製造

- ボーイング787ドリームライナー向けプレミアムクラスシート
- エアバス向けA350 ACS (Airbus Contracted Supplier) シート
- シンガポール航空向けファースト、ビジネスクラスシート

航空機用シートコンソールの製造

- プレミアムクラス シートコンソール

航空機内装品等製造関連



Galley-X

航空機整備等関連



海上保安庁 シコルスキー-S-76D型ヘリコプター

● AIRCRAFT INTERIORS

主力であるギャレー（厨房設備）、ラバトリー（化粧室）等の客室装備品の企画・開発・設計・製造に加え、客室改造・認証取得などのトータルサービスを、世界の主要なエアラインや、ボーイング社・エアバス社などの航空機メーカーに提供しております。又、国内外グループの英知を結集して世界中のお客様のニーズにお応えし、世界トップクラスのシェアを実現しています。

主な事業内容

航空機用ラバトリー（化粧室）の製造

- ボーイング747-8・767・777・777X・787向けラバトリーを独占供給

航空機用ギャレー（厨房設備）の製造

- ボーイング747-8・777・787・767・737に搭載
- エアバスA380・A330・A340・A320に搭載
- 世界の航空会社約100社へ納入
- 787向けギャレーを独占供給
- A350向けICE (Increased Cabin Efficiency) リアギャレーを供給

航空機改修事業

- 客室内装備品の新規搭載、配置換え及びキャビンクルーの休憩室搭載等に係わる、設計・プロジェクトの管理・取付用部品の製造・認証取得
- アメリカ連邦航空局 (FAA) よりODA^{※1}認定を取得 (ジャムコアメリカ)
- 欧州航空安全庁 (EASA) より設計認証 (DOA^{※2}) を取得 (ジャムコエアロデザイン&エンジニアリング)

※1 米国において航空機及びその部品等を設計・製造する際、安全に搭載できることを証明するため、検査及び承認が必要となります。承認に際し、FAAより優れた知見や安全管理体制を備えた企業へ認証代行の権限を委譲する制度がODAです。

※2 設計認証のことで、これを取得することにより、世界中の航空機の内装機デザインから認証取得までの業務を提供することを可能にしております。

● MAINTENANCE

昭和30 (1955) 年の創業以来、今日まで航空機整備会社としての歴史を受け継いでいます。近年では、国内エアラインのリージョナル機をはじめ、官公庁 (防衛省・海上保安庁・航空大学校など) より中小型飛行機・ヘリコプターの整備・改造、並びに大型機を含めた車輪・ブレーキをはじめとした各種装備品の整備を受託しています。これからも飛行安全の確保と品質向上を最優先にお客様へ迅速で確実なサービスを提供してまいります。

主な事業内容

防衛省、海上保安庁、国土交通省航空局、航空大学校、エアラインなどの航空機、装備品整備事業

- 中型・小型航空機及びヘリコプターの整備・改造
- リージョナル機[※]の整備
- プロペラ、脚、航空電子機器の整備
- 車輪、ブレーキ、救難用ホイスト (吊り上げ装置) のオーバーホール
- 大型旅客機客室内装備品の整備
- エバキューション (緊急脱出) スライドの整備

※座席数が50~100席程度で、地域の都市間を飛行する旅客機のこと。国内では、燃料効率の良いリージョナル機が積極的に導入されています。

航空機器等製造関連

● COMPONENTS

防衛関連の航空機に搭載される空調用熱交換器等、エアバス機向け垂直尾翼の部材及びA380型機2階床構造に使用されるADP (炭素繊維構造部材) 並びにA350型機向けLower Frame Work (貨物室の床下構造部材)、航空機用エンジン部品などを製造しています。

高度な熟練技能、特殊工程技术及び当社独自の生産技術がこれらの製品に活かされています。



航空機器製造事業部 調布工場 真空炉

主な事業内容

航空機用熱交換器及び各種航空機搭載機器の製造

ジェットエンジン部品の製造

航空機用炭素繊維構造部材の製造

- エアバスA380用2階床構造部材 (ADP[※])
- エアバスA350を除くエアバス機の垂直尾翼構造部材 (ADP)
- エアバスA350貨物室床下構造材

※当社が開発した炭素繊維複合材 (CFRP) の連続成形製法のこと。この製法の特徴は、自動化された連続製法により、理論上長さの制限がない部材が製造でき、品質に優れ、極めて高い精度を実現しています。

8月

NEDOによる次世代複合材及び軽金属構造部材創製・加工技術開発への参画について

平成28(2016)年8月、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が行う「次世代複合材及び軽金属構造部材創製・加工技術開発(第二期)」事業の委託先のひとつとして当社が選定されました。本プロジェクトは、航空機の燃費改善によるエネルギー消費量とCO₂排出量の削減、並びに国内航空機産業の国際競争力の強化を目指すものです。

当社は本プロジェクトにおいて、航空機内装品の主要構造部材であるハニカムパネルのさらなる軽量化及び低コスト化を目標として、破壊メカニズムの解析、構成要素ごとの特性評価、積層設計の研究を行い、本来ハニカムパネルはどの様に優れていてどうあるべきかを原点に立ち返って見直します。これらの基礎研究を踏まえ軽量化及び低コスト化を達成するため、ハニカムパネルを構成する

全ての素材を例外無しに検討すること、又、最新テクノロジーを駆使することで、次世代のハニカムパネルを開発します。本プロジェクトにより日本製航空機内装品の国際競争力の向上及び燃費改善による低炭素社会の実現に大きく貢献できるものと考えています。なお、研究開発期間は2019年度末までを予定しています。

1月

米国連邦航空局 (FAA) より航空機シート用のダイナミック試験設備について認定取得

平成29(2017)年1月12日、当社グループは、米国子会社であるジャムコアアメリカ(所在地:シアトル)に導入しました航空機シート用のダイナミック試験設備について、米国連邦航空局(FAA)より認定を取得しました。

航空機シートは機体側のシートトラックと呼ばれるレールに固定されており、緊急着陸時の機体の床面変形を想定して前

方16G・下方14G*の動荷重の強度要求を満たす必要があります。

これまで外部機関の試験設備を利用して試験を実施してきましたが、この認定取得により当社グループ内でダイナミック試験を実施することが可能になり、開発期間の短縮、試験コストの削減及び競争力の強化につながります。

*重力加速度のこと。例えば14Gであれば重量の14倍の荷重がかかります。



3月



ボーイング777 1500号機向けラバトリー（化粧室）を出荷

平成29(2017)年3月15日、航空機内装品製造事業部傘下の(株)新潟ジャムコは、ボーイング777型機の1500号機に搭載されるラバトリー（化粧室）を出荷しました。

777型機向けのラバトリーは平成6(1994)年5月に出荷を始めて以来、22年10ヶ月を経て1500号機向けの出荷達成となりました。

このラバトリーは777型機と後継機である777X型機の間を橋渡しする、ボーイング社及びエアラインの要求に対応した特別仕様モデルであり、1500号機の節目として象徴的な意味を持つものです。

今回の出荷を記念し、ボーイング社の方々列席のもと、記念セレモニーを執り行いました。この記念すべき日を迎えることができたのは永年にわたるボーイング社との友好な関

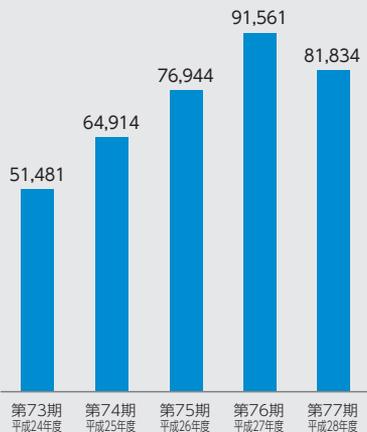
係によるものであり、引き続き高い信頼を得られるよう取り組んでまいります。

当社グループは、昭和54(1979)年にボーイング767型機向けラバトリーの生産を始めました。その後、ボーイング747、777、787型機向けラバトリーを受注し、現在まで独占供給を続けております。又、777X型機向けラバトリー供給の契約も締結しており、今後も航空機内装品のトップメーカーとして機体メーカー、エアラインの期待に応えられるようサービス向上に努めてまいります。



売上高

(単位：百万円)



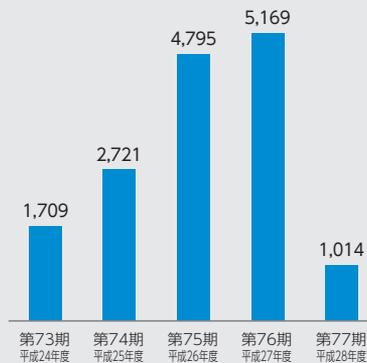
経常利益／経常利益率

■ 経常利益 (単位：百万円) ○ 経常利益率 (単位：%)



親会社株主に帰属する当期純利益

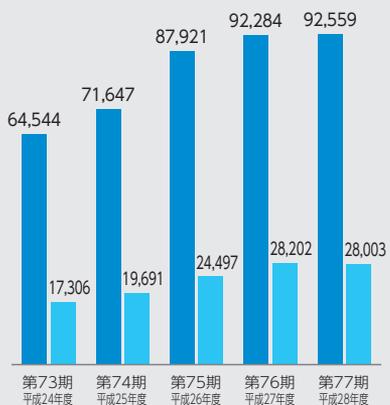
(単位：百万円)



総資産／純資産

(単位：百万円)

■ 総資産 ■ 純資産



ROA (総資産経常利益率)

(単位：%)



自己資本比率／ROE (株主資本当期純利益率)

(単位：%)

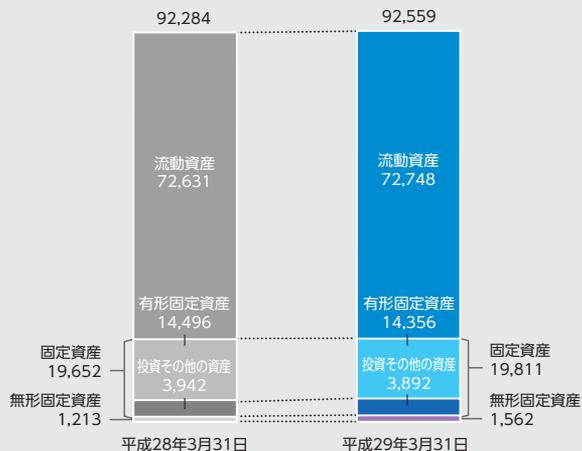
○ 自己資本比率 ○ ROE (株主資本当期純利益率)



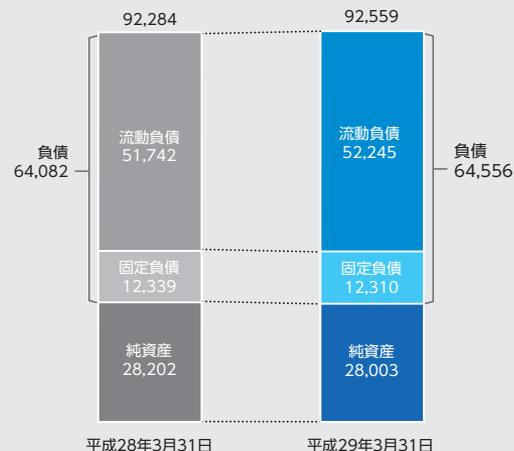
連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

資産の部

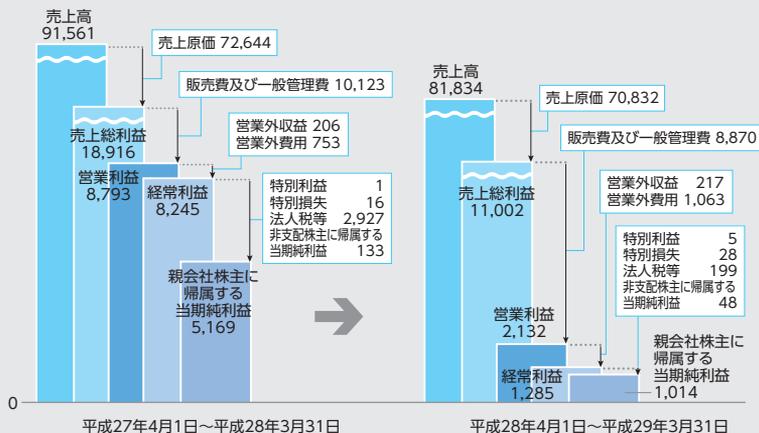


負債・純資産の部



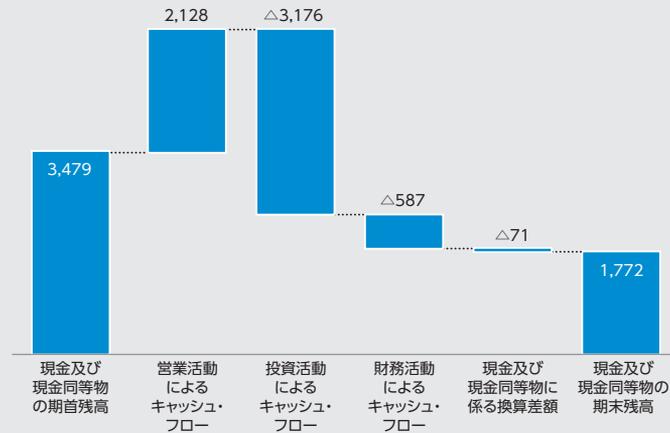
連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨) 平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：百万円)



航空機内装品等製造関連

売上高／経常利益推移

売上高

553億11百万円

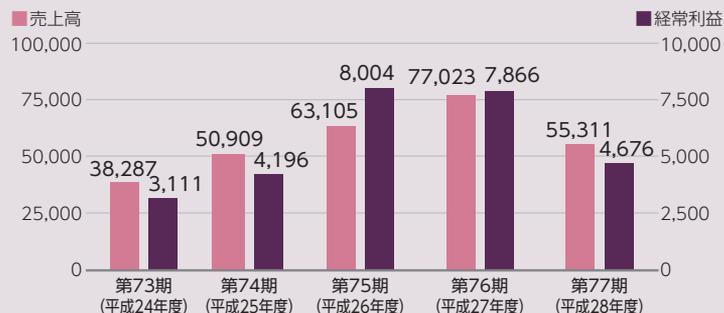
経常利益

46億76百万円



Lavatory-X

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



※平成24年度から平成27年度までは、航空機シート等製造事業の経営成績を含んだ数値となります。

当期の概況

ボーイング777型機の後継機となる777X型機向けラバトリーやエアバスA350型機向け後部ギャレの開発を進めると共に、種々のコスト削減施策を推進しました。

当期の業績は、前期に対して為替相場が円高に推移したことによる外貨建て売上高の目減り、ボーイング社が開発中の777X型機への移行の端境期を迎えたことによる777型機向けギャレの売上高の減少、スペアパーツ販売の減少などに加え、次期以降損失が見込まれる工事に対する工事損失引当金による原価増及び為替差損の発生などにより、前期に比べて売上高、経常利益共に減少しました。

航空機シート等製造関連

売上高／経常利益推移

売上高

125億56百万円

経常損失

△35億47百万円



Venture

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



平成28年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席(シート)の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。

当期の概況

平成27年12月に稼働を開始した航空機シート関連の生産工場である(株)宮崎ジャムコにおいて本格的に量産が始まり、生産性向上とサプライチェーンの強化を進めました。

当期の業績は、航空機用シートの出荷増加により売上高は前期比増加し、コスト削減策を推し進めたものの、円高による外貨建て売上高の目減りの影響、次期以降損失が見込まれる工事に対する工事損失引当金の計上、又、進行中のプログラムの一部キャンセルに伴う費用の一括処理などにより経常損失となりました。

航空機器等製造関連

売上高／経常利益推移

売上高

63億49百万円

経常利益

96百万円



エアバスA380 ADP製法による胴体2階床炭素繊維構造部材 (写真提供：エアバス社)

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

炭素繊維構造部材の新規品目であるエアバスA350型機向け貨物室床下構造部材のコスト削減策を進めると共に、航空機用エンジン部品の生産増加に取り組みました。

当期の業績は、航空機用エンジン部品の受注が堅調で生産量も増加しましたが、前期に対して円高に推移したことによる外貨建て売上高の目減り、エアバスA380型機向けADPの生産量の減少などにより売上高が減少しました。又、新規品目のA350型機向けの炭素繊維構造部材のコスト削減を進めましたが、上期の損失の影響が残り、経常利益も減少しました。

航空機整備等関連

売上高／経常利益推移

売上高

76億17百万円

経常利益

64百万円



海上保安庁 ポンバルディアDHC-8型航空機

売上高・経常利益推移 (単位：百万円)



当期の概況

飛行安全の確保と品質向上の取組みを継続すると共に、受注回復に努め生産性改善に向けた取組みを進めました。

当期の業績は、特別作業の受注や完成工事が比較的好調に推移した前期に対し、完成工事が減少することなどにより売上高、経常利益共に減少しました。

会社概況・事業拠点

会社概況 (平成29年3月末現在)

会社概況

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	昭和24年3月15日
創立年月日	昭和30年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ガレージ、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソールの製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機の機体、客室、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結：3,040名 個別：1,202名

役員／執行役員 (平成29年6月28日現在)

代表取締役社長	大喜多治年	常務執行役員	市原一義
代表取締役副社長執行役員	大上克裕	常務執行役員	田所務
取締役専務執行役員	木村敏和	常務執行役員	西宮和夫
取締役専務執行役員	加藤正道	常務執行役員	豊福俊雄
取締役常務執行役員	青木康成	執行役員	鈴木雅人
取締役常務執行役員	粕谷寿久	執行役員	伊田幸男
取締役常務執行役員	後藤健太郎	執行役員	内城行雄
社外取締役	大崎直哉	執行役員	阿部英二
社外取締役	小堀寿亮	執行役員	秋葉正史
社外取締役*	鈴木伸一	執行役員	和田
社外取締役*	渡辺樹一		
常勤監査役	磯上範好		
常勤監査役	大倉敏治		
社外監査役*	河村寛治		
社外監査役*	木須芳紹		

※は、東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (平成29年3月末現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

本社 東京都立川市

航空機内装品・機器事業本部

- 航空機内装品製造事業部 東京都立川市
- 航空機シート製造事業部 東京都立川市
- 航空機器製造事業部 東京都調布市

航空機整備事業部

- 機体整備工場 宮城県岩沼市
- 帯広支所 北海道帯広市
- 中部支所 愛知県常滑市
- 宮崎事業所 宮崎県宮崎市
- 部品整備工場 千葉県成田市
- 東京都調布市

株主メモ

事業年度	……… 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	……… 3月31日
中間配当金受領株主確定日	……… 9月30日
定時株主総会	……… 毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	……… 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	……… 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	……… 東京証券取引所第一部
公告の方法	……… 電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることが出来ない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社ウェブサイト (http://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

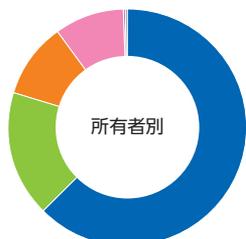
ご注意

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできません。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

株式の状況 (平成29年3月末現在)

発行可能株式総数	……… 80,000,000株
発行済株式の総数	……… 26,863,974株
株主数	……… 6,023名
上場証券取引所	……… 東京証券取引所第一部 (証券コード7408)

株式分布状況



■ その他の法人	62.62%	16,821,500株
■ 個人・その他	17.21%	4,622,826株
■ 外国法人等	10.24%	2,752,195株
■ 金融機関	9.40%	2,528,400株
■ 金融商品取引業者	0.37%	100,323株
■ 自己名義株式	0.14%	38,730株

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.39
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	850	3.17
ジャムコ従業員持株会	403	1.50
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	340	1.26
BNYMSANV RE BNYMTD RE CF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
第一生命保険株式会社	234	0.87
三菱商事株式会社	221	0.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	214	0.80

(注)持株比率は自己株式(38,730株)を控除して計算しております。



『ジャムコを訪ねて』 — 海外拠点のご紹介 —

シンガポール
SINGAPORE



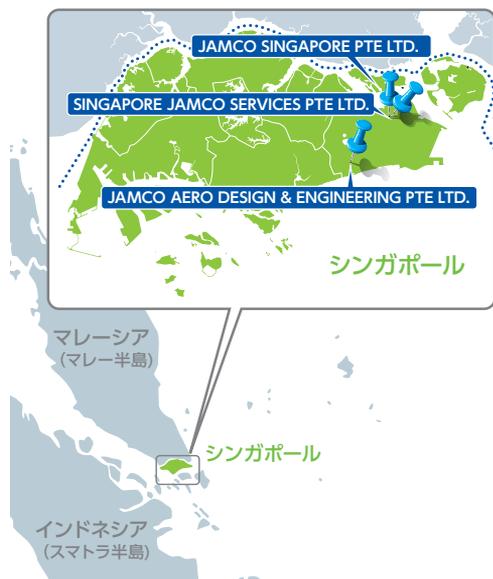
成り立ち

シンガポールは地理的にアジア・オセアニア地域の中心に位置しており、これら地域のエアラインへ製品・サービスを迅速に提供するのに適した国です。シンガポールには現在、同国のフラッグシップキャリアであるシンガポールエアラインとのジョイントベンチャーとしてスタートした当社グループ会社3社が事業を展開しております。

旧SINGAPORE JAMCO PTE LTD.は、当社では持分法適用会社として昭和63(1988)年に設立され、航空機内装品の製造事業並びにシンガポール航空向けの航空機整備事業を行っておりました。平成26(2014)年5月、同社の航空機内装品等の製造事業を当社が主体となって運営することで当社グループにおける航空機内装品事業の連携強化を図り、サプライチェーンの一層の充実を図ることを目的に、出資比率を75%に引き上げ、社名をJAMCO SINGAPORE PTE LTD.に変更して連結子会社としました。一方で航空機整備事業については、新たに設立されたSINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD.に譲渡し、当社は同社に20%出資して持分法適用会社とし、同事業への参画を継続しております。

平成16(2004)年には、主にアジア・オセアニア地域のエアライン向けに客室改造設計等のサービスを提供する連結子会社として、当社、JAMCO AMERICA, INC.並びにSIAEC社[※]との合併でJAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.を設立いたしました。

※SIAEC: SIA Engineering Company (シンガポール航空のグループ会社)



JAMCO SINGAPORE PTE LTD.

SINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD.

JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD.

シンガポール

マレーシア
(マレー半島)

シンガポール

インドネシア
(スマトラ半島)

JAMCO SINGAPORE PTE LTD.

シンガポール航空向けの航空機用座席(ファーストクラス、ビジネスクラス)の最終組立て、ボーイング737型機やエアバスA320型機といった小型機向けのギャレー(厨房設備)の製造などを行っております。アメリカ連邦航空局(FAA)、欧州航空安全庁(EASA)、シンガポール民間航空庁(CAAS)より各種認定を取得しており、当社グループにおけるアジア・オセアニア地域の重要な拠点としての役割を担っております。

JAMCO AERO DESIGN & ENGINEERING PTE LTD. (JADE)

エアラインはサービスの差別化のために客室の快適性を追求しておりますが、JADEはこうしたエアラインのニーズを的確に捉え、これまで数多くの客室改修・改造設計を提供してきており、エンジニアリングを通じて最新の機内サービスをサポートしています。

SINGAPORE JAMCO SERVICES PTE LTD.

シンガポールのチャンギ国際空港内において航空機及び客室のメンテナンスサービスを提供しています。

株式会社 **ジャムコ**

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
TEL:042-503-9900 (代表)
TEL:042-503-9146 (広報・IR 経営企画部)

※本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確定な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC® 認証紙を使用しています。